

埼玉県の住み良さと地域特性によるまちづくり

はじめに

近年、民間不動産会社等の調査で、大宮、浦和、川口など埼玉県内の街が住みたい街として取り上げられるようになった。埼玉県は全国第5位、730万人以上の人口を有するとともに、人口の増加も続いており、これに対応し様々な生活環境の整備が進められてきた。埼玉県政世論調査では、「今住んでいるところは全体として住み良いところだと思う」とする県民の割合は年々増加し76.6%に達している。

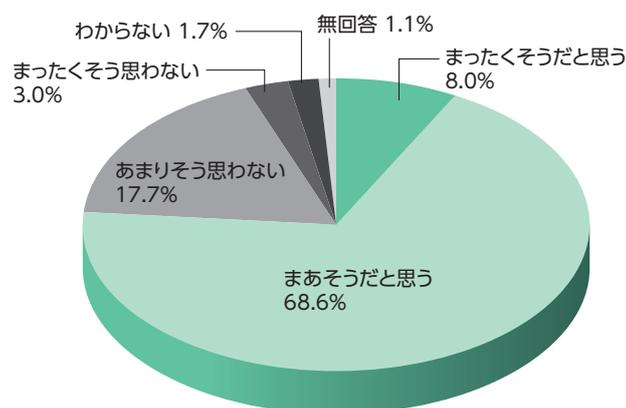
埼玉県は、東京都に隣接する南部の地域、東京都から距離のある北部の地域、その中間の地域でそれぞれの特徴があり、住民が求める住み良さの基準や、まちづくりの重点も異なっている。

本稿では、埼玉県全体について暮らしに関わる生活環境を見た上で、地域毎の特性や求められるまちづくりの方向等についてみていく。

埼玉県の住み良さ

2020年度の埼玉県政世論調査によると、「今住んでいるところは、全体として住み良いところだと思う」に対して、「まったくそうだと思う」8.0%、「まあそうだと思う」68.6%、「あまりそう思わない」17.7%、「まったくそう思わない」3.0%、「わからない」1.7%な

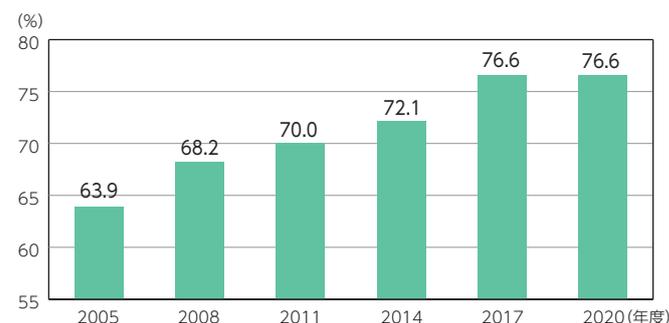
●今住んでいるところは、全体として住み良いところだと思う



資料:埼玉県「埼玉県政世論調査(2020年度)」

どとなっている。「まったくそうだと思う」と「まあそうだと思う」を合わせると76.6%となり(以下、住み良いとする)、埼玉県は住み良いとする県民が8割近くにのぼっている。また、住み良いとする割合は、2005年度の63.9%から2020年度には76.6%となり、住み良いとする割合は年々高くなっている。

●住み良いとする割合の推移



資料:埼玉県「埼玉県政世論調査」

埼玉県の生活環境と住み良さ

住み良さの一つの指標として、公共施設等の整備状況を試みる。全国で人口の多い上位7都府県(東京都、神奈川県、大阪府、愛知県、埼玉県、千葉県、兵庫県)における人口当たりでの比較でみると、埼玉県は、公民館等数1位、図書館数、劇場・音楽堂等数がそれぞれ2位、公共スポーツ施設数、都市公園面積がそれぞれ3位である。東京圏の1都3県の中でも上位となっており、埼玉県は生活に必要な施設の整備が進んでおり、住み良さの一因となっていると考えられる。

かつては買い物などで東京都への流出が多いとされていたが、埼玉県広域消費動向調査をみると、1986年、2000年、2015年について、県内購買率が89.8%→92.4%→94.6%と高まっている。県内では大型商業施設の開業や駅前の整備などが進み、近隣で買い物などを楽しめるところが増えており、こうした面での生活環境も向上している。また、圏央道など道路整備が進み、物流施設や食品などの生産拠点、

●人口10万人当たり公共施設数等(人口上位7都府県)

(単位:所、ha)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
図書館数	東京都	埼玉県	千葉県	兵庫県	大阪府	愛知県	神奈川県
	2.9	2.3	2.3	2.0	1.7	1.3	0.9
公民館等数	埼玉県	兵庫県	千葉県	愛知県	大阪府	神奈川県	東京都
	6.9	5.7	4.9	4.7	2.4	1.8	0.8
劇場・音楽堂等数	兵庫県	埼玉県	愛知県	千葉県	東京都	神奈川県	大阪府
	1.2	1.0	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8
公共スポーツ施設数	千葉県	愛知県	埼玉県	兵庫県	神奈川県	東京都	大阪府
	26.6	24.7	24.3	23.3	16.8	16.5	14.4
都市公園面積(ha)	兵庫県	愛知県	埼玉県	千葉県	神奈川県	大阪府	東京都
	130	77	70	69	55	54	43

資料:文部科学省「社会教育調査(2018年10月1日)」(図書館数、公民館等数、劇場・音楽堂等数)
 スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査(2018年10月1日)」(公共スポーツ施設数)
 国土交通省「都市公園整備状況(2019年3月31日)」(都市公園面積)
 総務省「人口推計」2018年10月1日

大型商業施設の立地などによる働く場所の増加、地域の活性化も住み良さの評価につながっており、自然災害が比較的少ないことも評価されていると考えられる。

一方、人口当たり医師数が先の7都府県で最も少なく、同刑法犯認知件数が3番目に多いなど、改善が求められる面もある。

埼玉県の地域別の住み良さ

埼玉県は、地勢的また歴史的にそれぞれ特徴を持った、いくつかの地域に分けられる。また、東京都か

らの距離、東京都への通勤・通学状況により地域の特徴に違いがみられる。埼玉県政世論調査では埼玉県を10地域に分類しており、地域分類は表の通りである。なお、地域別での東京都へ通勤・通学する割合は、東京都に近接する南西部地域、南部地域、西部地域、さいたま地域、東部地域で高く、東京都から距離のある秩父地域、北部地域で低い。県央地域、川越比企地域、利根地域は東京都からの距離と同様に中間となっている。

埼玉県政世論調査により地域別に住み良さについてみると、「住み良い」とする割合は、南部地域80.5%、さいたま地域80.4%、南西部地域79.7%な

●地域区分および地域別通勤・通学状況(2015年)

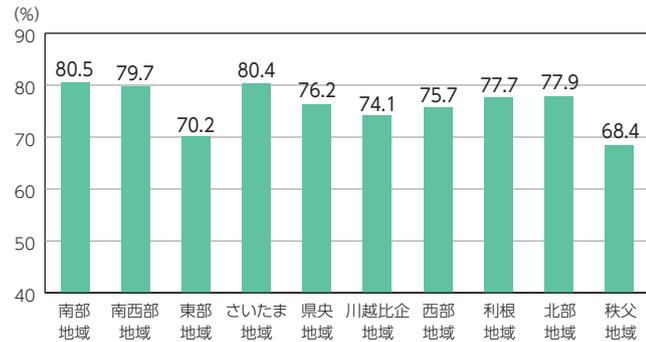
(単位:人、%)

地域	就業者・通学者	東京都へ通勤・通学	割合	該当市町村名
南部地域	425,966	149,196	35.0	川口市 蕨市 戸田市
南西部地域	379,190	140,488	37.0	朝霞市 志木市 和光市 新座市 富士見市 ふじみ野市 三芳町
東部地域	606,504	165,379	27.3	春日部市 草加市 越谷市 八潮市 三郷市 吉川市 松伏町
さいたま地域	655,846	184,975	28.2	さいたま市
県央地域	283,227	50,229	17.7	鴻巣市 上尾市 桶川市 北本市 伊奈町
川越比企地域	424,312	61,311	14.4	川越市 東松山市 坂戸市 鶴ヶ島市 毛呂山町 越生町 滑川町 嵐山町 小川町 川島町 吉見町 鳩山町 ときがわ町 東秩父村
西部地域	406,857	115,548	28.4	所沢市 飯能市 狭山市 入間市 日高市
利根地域	349,391	46,920	13.4	行田市 加須市 羽生市 久喜市 蓮田市 幸手市 白岡市 宮代町 杉戸町
北部地域	274,504	14,686	5.4	熊谷市 本庄市 深谷市 美里町 神川町 上里町 寄居町
秩父地域	52,840	1,318	2.5	秩父市 横瀬町 皆野町 長瀨町 小鹿野町
埼玉県	3,858,637	930,050	24.1	—

資料:埼玉県「埼玉県政世論調査」、総務省「国勢調査」
 (注)就業者・通学者には15歳未満を含まない

ど、東京都に近い地域でやや高い傾向がみられるが、極端な違いはない。それぞれの地域は全体としてみると住み良いところと思われており、県全体として比較的バランスがとれている。

●地域別住み良いとする割合

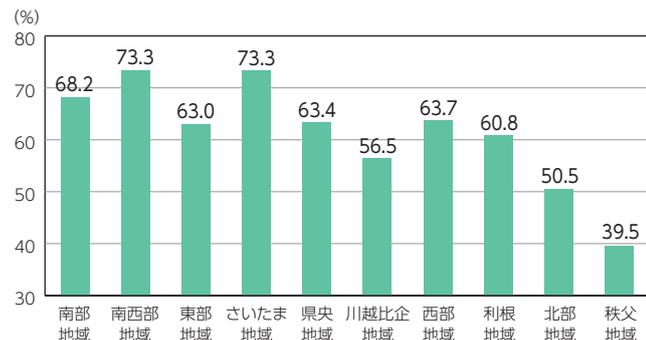


資料:埼玉県「埼玉県政世論調査(2020年度)」

「住み良さ」についての調査を項目別にみると、全体とは違い地域別で違いが出てくる。「鉄道など交通網が整っている」では、「まったくそうだと思う」と「まあそう思う」を合わせた割合(以下、「そう思う」)が高いのは、南西部地域、さいたま地域それぞれ73.3%、南部地域68.2%、低いのは秩父地域39.5%、北部地域50.5%、川越比企地域56.5%、利根地域60.8%となっており、東部地域、県央地域、西部地域はその間にある。

東京都に近く東京都に通勤・通学する割合が高い地域で「鉄道など交通網が整っている」とする割合が高い。こうした地域では、交通利便性が住み良さの評価につながっており、住む場所の選択基準として重視されていると考えられる。

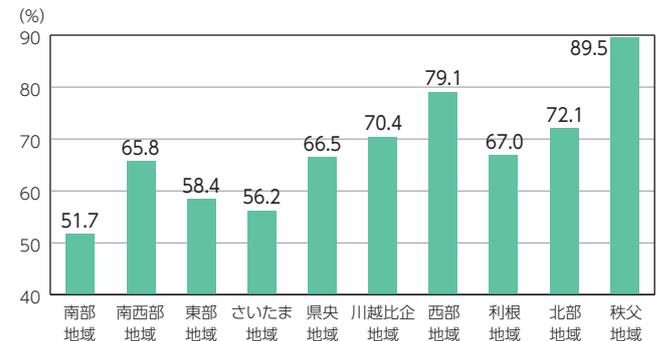
●鉄道など交通網が整っている



資料:埼玉県「埼玉県政世論調査(2020年度)」

一方、「街の中や住まいのまわりに緑が多い」は、秩父地域89.5%、西部地域79.1%、北部地域72.1%、川越比企地域70.4%で「そう思う」が多い。東京都から距離のある地域では、緑など自然環境の満足度が高く、住み良さとしてこうした点を評価していると考えられる。

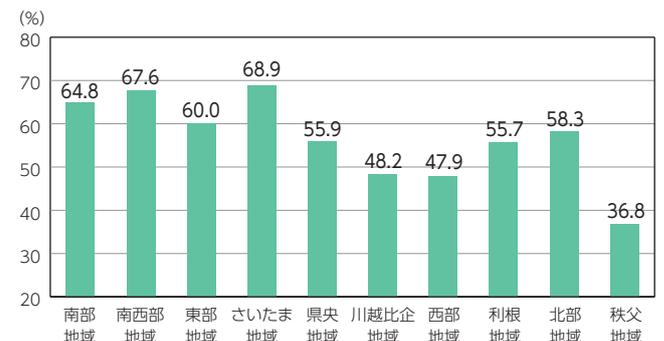
●街の中や住まいのまわりに緑が多い



資料:埼玉県「埼玉県政世論調査(2020年度)」

「住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利」は、さいたま地域68.9%、南西部地域67.6%、南部地域64.8%、東部地域60.0%で高く、それ以外の地域はやや低くなっている。

●住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利

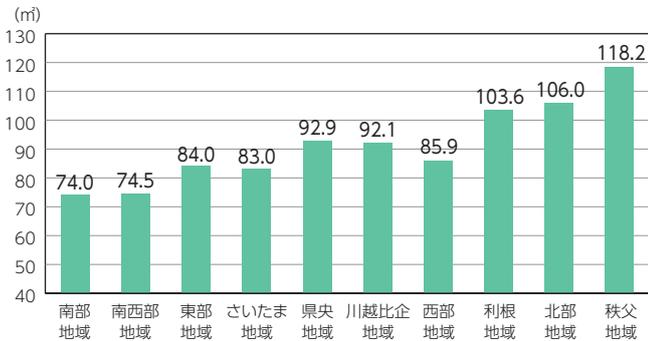


資料:埼玉県「埼玉県政世論調査(2020年度)」

住み良さの一つの指標として、1戸当たりの住宅面積をみると、秩父地域118.2㎡、北部地域106.0㎡、利根地域103.6㎡と東京都から距離のある地域で大きく、東京都に近い地域では小さい。

以上のことをまとめると、東京都に近い南部地域、南西部地域、東部地域、さいたま地域では、交通利便性や生活利便性の評価が高い一方、緑の多さや、住宅面積など住環境については、やや弱い。東京都

●地域別1戸当たり住宅面積



資料:国土交通省「住宅・土地統計調査(2018年)」
(注)データのない町村を除く

から距離のある利根地域、北部地域、秩父地域は東京都から近い地域とは反対の傾向がみられる。中間にある県央地域、川越比企地域、西部地域は、緑の多さなど生活環境については比較的评价が高いが、生活利便性での評価が低い。

交通利便性と住環境が相反することがあるように、住み良いとする基準や住む場所として選択する基準は年齢や家族構成、勤務状況などの状況や、住むところとして何を重視するかにより異なる。埼玉県は、地域により生活環境に違いがみられ、まちづくりの重点や方向性も地域に応じて異なるものと考えられる。

地域特性によるまちづくり

埼玉県では、「まちづくり埼玉プラン」などで地域別の特徴を踏まえて、それぞれまちづくりの重点課題、施策、目標等を定めている。これらを参考として、地域別のまちづくりについて考えてみる。

南部地域、南西部地域、東部地域、さいたま地域は、東京都に近接し、東京都への通勤・通学者の割合が高く、人口の増加が続いている。交通利便性、生活利便性の評価は高い。今後も、駅などを中心として都市機能を集積し利便性をさらに高め、賑わいのあるまちづくりを進めることによって、さらなる魅力の向上が期待される。

県央地域、川越比企地域、西部地域は、埼玉県の中間部であり、東京都への通勤・通学者が一定の割

合を占めるが、人口は減少している。交通利便性や生活利便性にやや弱い面がみられる一方で、東京都に近接する地域と比べ、緑が多く、住宅面積も広い。都市機能の集積やアクセスの改善により生活利便性を高めるとともに、圏央道や幹線道路周辺での産業立地により雇用の確保、地域の活力が高まることが期待される。また、比較的良好な住環境をアピールし、子育て支援や、医療、福祉など生活に寄り添った施策に重点を置くことにより、住み良いまちとして選ばれることが期待される。

利根地域、北部地域、秩父地域は、東京都から距離があり、東京都への通勤・通学者の割合が小さく、人口の減少が続いている。地域の中心に機能を集積するコンパクトなまちづくりを行うとともに、自然や歴史的資産をいかした観光振興が期待される。自然体験や農業体験など都市とは違った楽しさや住み良さをアピールし、移住や二拠点生活などのニーズを取り込んでいくことも重要である。

埼玉県がより住み良いところとなるために、地域特性、住民のニーズに応じた、各種施策、まちづくりを行うことが重要である。これにより、地域それぞれが持つ魅力が向上し、埼玉県全体が住み良い、また、選ばれる県としてバランスの取れた発展が持続できると考える。
(吉嶺暢嗣)

●地域別人口増減

(単位:人)

地域	人口	自然増減数	社会増減数	人口増減数
南部地域	823,426	▲593	5,304	4,711
南西部地域	731,930	▲339	4,058	3,719
東部地域	1,165,185	▲2,261	6,286	4,025
さいたま地域	1,314,145	▲876	12,765	11,889
県央地域	533,534	▲1,795	1,200	▲595
川越比企地域	792,891	▲3,351	1,508	▲1,843
西部地域	777,928	▲3,012	743	▲2,269
利根地域	645,325	▲3,428	177	▲3,251
北部地域	507,333	▲2,992	854	▲2,138
秩父地域	98,357	▲989	▲493	▲1,482
埼玉県	7,390,054	▲19,636	32,402	12,766

資料:総務省「住民基本台帳に基づく、人口動態及び世帯数」
(注)人口は2020年1月1日、人口増減は2019年1月1日～12月31日